

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2023 年 12 月 1 日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：73,566人 高齢者人口：17,336人

高齢化率：23.57%

桜井谷・桜井谷東校区は古くからの歴史ある戸建て中心の住宅街と、通勤族が多く、マンションが数多く立ち並ぶ地域がある。地域活動の拠点が桜井谷校区の地域に多くあり、離れた地域に住む高齢者にとっては、途中は坂道もあり参加が難しくなっている。

刀根山校区は地域全体が丘陵地で坂が多いという特徴がある。また地域にはスーパー等の商業施設が殆ど無く、高齢になると買い物等が困難になる課題がある。地域活動は盛んであり、各種イベントや防災訓練、見守り活動など活発に行われている。

大池校区は校区の南側に阪急豊中駅があり、周辺には多くの商業施設や地域活動の拠点である大池小学校がある。神社、教会、寺院の数も多く、歴史のある街並みが広がっている。一方で校区の地域活動の拠点から離れた場所に住む高齢者にとっては、バスに乗って向かう等の方法はあるが、やはり参加がしにくいという課題がある。

蛍池校区は商業施設等が阪急蛍池駅周辺に集中している。地域活動の拠点も蛍池公民館、市の施設、図書館等が入った駅前の建物である。そのため、校区周辺の高齢者にとっては、駅に向かって緩やかな坂道になっていることもあり、しんどく感じている。しかし、住民同士の昔ながらの近所付き合いや、校区福祉委員会等の地域活動は活発である。

箕輪校区の地域活動の拠点は校区の南側にある箕輪小学校である。校区福祉委員会、民生委員、公民分館、自治会等が中心となって様々な取り組みを展開されている。しかし、校区の北側から向かう時は途中で急な坂、また校区の西側から向かう際は道幅の広い国道大阪池田線を渡る必要がある等、環境的な課題がある。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

（令和5年度テーマ）

「いよいよアフターコロナ時代の幕開けへ！～地域共生社会の実現に向かって、地域のもっと奥深くへ切り込む！～」

【特に力を入れて活動している点】

コロナ禍を経た地域の現状・課題を把握し、多機関協働で解決に向けて取り組むこと。

【活動の中での課題やその解決策】

包括だけでなく、所属法人や地域住民、多機関との協働がカギとなることを改めて実感した。今後も、所属法人の地域公益事業を通じた地域貢献に協力していくこと、また地域住民（多世代）、関係機関としっかりつながりながら、それぞれの力を活かしていく様な仕掛けづくりをしていきたい。

総評

【特徴的な取組内容】

●法人全体としての取組ですが、地域課題に基づいた、地域広域事業の展開に結びつけられています。地域の状況をふまえ、買い物困難者が多い地域での、買い物バスによる支援が実現しており年々内容の拡充が行われています。

●地域ニーズを踏まえた「みんなの保健室」を展開されており、体力測定会の実施やリハビリテーション専門職の参加による地域支援が行われています。併設の障害者相談支援センターと連携し、総合的な相談の場を設けられています。

●通いの場では、その場のニーズや状況を踏まえた、やり方や伝え方の工夫を大切にされており、また、場の継続のためのフォロー活動、新たな場の創出にも取り組まれています。体力測定会単発での開催実施拡充にも取り組まれており、地域の児童館を活用した場の創出に向けて取り組まれています。介護保険施設や自宅等、新たな通いの場となり得るスペース確保に努められており、既存とは異なる場の創出につながられています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

●利用者のニーズや意向と、リハビリ専門職のアセスメント、介護支援専門員の作成する支援計画の目的について、より一層、整合性を高めたり、方向性合わせることを期待します。

●地域でのさまざまな展開に期待がもてる一方で、関係機関、地域住民等とより一層連携を深めた、持続可能な体制、方法での実施が望まれます。